

執筆者紹介

戒能 通弘 (かいのう みちひろ) 序論、第1章～第2章、第5章～第7章

1970年生まれ。同志社大学法学部教授。ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス法学修士(LL.M.)課程修了。博士(法学・同志社大学)。

主な業績：

著書に『世界の立法者、ベンサム』(日本評論社、2007年)、『近代英米法思想の展開』(ミネルヴァ書房、2013年)、『ジェレミー・ベンサムの挑戦』(共編著、ナカニシヤ出版、2015年)、『法の支配の歴史』(編著、ナカニシヤ出版、2018年)、『法思想史を読み解く〔第2版〕』(共著、法律文化社、2024年)、『イギリス法入門〔第2版〕』(共著、法律文化社、2025年)。訳書に、P・スコフィールド著『功利とデモクラシー：ジェレミー・ベンサムの政治思想』(共訳書、慶應義塾大学出版会、2020年)、G・ポステマ著『ベンサム「公開性」の法哲学』(単訳書、慶應義塾大学出版会、2023年)。

太田 寿明 (おおた としあき) 第3章～第4章

1991年生まれ。熊本大学大学院人文社会科学研究部法学系准教授。一橋大学大学院法学研究科博士後期課程修了。博士(法学)。

主な業績：

「スミス『自由主義』再考——焦点としての『被治者の自由』」(『思想』第1195号、岩波書店、2023年)、「市場に規制は必要か?——アダム・スミスの経済学」(『法学セミナー』第836号、日本評論社、2024年)、「アダム・スミスをめぐる刑罰論の諸相」(重松博之・高橋洋城・中山竜一・吉岡剛彦編『法の理念と現実——酒匂一郎先生古稀記念論文集』成文堂、2024年)ほか。